

研究通信

No. 28

1958年7月刊

村落研究会事務局

豊橋市町烟町

愛知 大学
社会学研究室内

鳴子温泉に決定

一九五八年度大会と研究会場について

村落研究会が発足してすでに年を経過し、研究大会も第六回を迎えることになりました。会員も現在では二百名にまで及ぶんとしております。申すまでもなく村研が法律、経済、社会、歴史、地理等の諸学の領域にわたって村落についての多角的研究を試みていることは、学会においてもそのユニークな性格が認められ、研究成果も極めて大きいものがあると考えられます。一般に村研のみに限らず、すべての学会研究会は、それが発展し成長することを望んでいたことは違いありませんが、反面その必然の結果として集団 자체の性格が形式化されたものによる傾向にあるようです。しかしそれが事務的な作業能率の向上を目指すならばともかく、學問に関するかぎりは形式化された雰囲気ではそこに存在する何らかの制約によって、問題を自由にしかも深層的に掘り下げるとは不可能に思われます。殊に村研におけるように会員の専攻領域が広範囲にわたり、それぞれの概念にも若干の差異が存在しているときはより更といえどもよう。こゝ二三年來、会員の間でこのことが取沙汰され、講ずべき対策がいろいろと考えられて来たとともにけだし当然のなり行きと考えられます。

既刊研究通信ですでに御承知のように、形式化の除去と会の発展

のために実は既に昨年の大会を宿泊を兼ねたものにする計画があつたのですが、委員会では時期尚早として、先づ大会を二日間とし、他学会から独立したものとして一步前進の態勢を整えたわけです。本年は会員間に更に高まつて来た宿泊大会の必要の声を耳にしながら、事務局の行ったアンケート（別表参照）を基礎にして、拡大委員会において慎重に検討された結果、遂に多年の懸案であつた宿泊大会を鳴子温泉において行うことに決定した次第です。一切の制約から離れて温泉にくつるきながら時間の経過も忘れて討論を行えば必ずや実り多い大会を期待出来ますし、討論の延長から話に花を咲かせばお互の親交を深めることも出来ます。こうしたところに村研本来の姿を再び見出すことも出来るかと思います。会員各位の多数の御賛美と活潑な報告、討議の行われますことを心からお願致します。

アンケート集計表（100名）						
会員 地区 別	出席					
	有	無	未定	賛成	不賛	無回答
中部	71	7	17	31	16	1
東北	24	4	3	13	4	1
北海道	5	1	2	2	2	1
東	76	10	19	32	15	7
西	17	2	3	10	2	1
中国四国	49	5	10	22	12	4
九州	21	1	4	12	4	4
計	100	12	22	46	20	10